



Copyright © 2019 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

目次

- [改訂情報](#)
- [はじめに](#)
- [機能一覧](#)
- [システム要件](#)
- [検証済み環境](#)
- [制限事項](#)
- [保証規程](#)
- [著作権および特記事項](#)

改訂情報

変更年月日	変更内容
-------	------

2019-08-01	初版
------------	----

本書の目的

本書では IM-PDFAutoConverter for Accel Platform のリリース内容について記載されています。

製品の利用対象

次の利用を対象としています。

- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を利用したアプリケーション開発



コラム

旧バージョンがインストール済みの場合は、旧バージョンをアンインストール後に、本バージョンをインストールしてください。

機能一覧

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform は、Office文書（Word/Excel/PowerPointなど...）・画像（BMP/JPG/TIF/PNG/GIFなど...）・DocuWorks等のファイルをPDFファイルに変換するためのExtentionモジュールです。

WEBシステムに登録された各種ファイルを自動的にPDFファイルに変換、バッチ処理で大量のファイルをPDF変換など、様々な場面で幅広くご利用いただけます。

CADやHTMLなど特殊なファイルのPDF変換が必要な場合には、個別に営業までお問い合わせください。

以下に本製品の機能一覧を列挙します。

本製品の構成として、intra-mart Accel Platform とは別にPDF変換用に個別サーバ（PDF変換サーバ）の構築が必要です。

PDF変換サーバの、OSロケールは以下に対応しています。

- 日本語

各機能の仕様や設定方法に関しては、各マニュアルまたはセットアップガイド等を参照してください。

PDF変換機能

PDF変換基本機能

機能	機能概要
PDF生成	Office文書（Word/Excel/PowerPoint等...）・画像（BMP/JPG/TIF/PNG/GIFなど...）・DocuWorks等をPDFファイルに変換する機能です。 <ul style="list-style-type: none">■ この機能はAPIで提供されます。■ 変換可能なファイルの種類については、制限事項を参照ください。
リモート呼び出し	別サーバ上に構築しているPDF変換機能を、intra-mart Accel Platform から呼び出す機能です。この機能はAPIで提供され、開発者はリモート呼び出しを意識することなくAPIを呼び出すことでPDF変換機能が利用できます。 <ul style="list-style-type: none">■ この機能はAPIで提供されます。
負荷分散	PDF変換サーバが複数台存在する場合、自動的にラウンドロビンで処理を振り分けます。PDF変換サーバを追加することで上位プログラムを変更することなくスケールアウトが可能です。 <ul style="list-style-type: none">■ この機能はAPIで提供されます。

当バージョンにおけるシステム要件は次の通りです。

intra-mart Accel Platform のサーバ要件

- intra-mart Accel Platform 2019 Summer (Standard Edition、Advanced Edition、Enterprise Edition)
- 利用する intra-mart Accel Platform のサーバ要件に準拠します。



注意

データベース等のシステム要件に関して、intra-mart Accel Platform では対応していても、アプリケーションでは対応していない場合があります。
必ず、本ドキュメントに記載されているシステム要件をご確認ください。

バージョンと連携エンジンの整合性確認表

本製品は連携するライブラリのインストールが必要です。

対応しているバージョンは以下になりますので、正しい組み合わせでご使用ください。

アップデートバージョン	連携ライブラリバージョン
2012 Winter (8.0.0)	PDFオートコンバータEX 2.3.5 /PDFコンバータ 4.4.3
2013 Winter (8.0.1)	PDFオートコンバータEX 2.6.0 /PDFコンバータ 4.4.8
2014 Spring (8.0.2)	PDFオートコンバータEX 3.0.1 /PDFコンバータ 5.0.0 b9
2014 Winter (8.0.3)	PDFオートコンバータEX 3.0.1 /PDFコンバータ 5.0.0
2014 Spring (8.0.4)	PDFオートコンバータEX 3.1.1 /PDFコンバータ 5.0.1
2016 Spring (8.0.5)	PDFオートコンバータEX 3.4.0 /PDFコンバータ 5.1.3
2016 Winter (8.0.6)	PDFオートコンバータEX 3.4.2 /PDFコンバータ 5.1.5
2017 Spring (8.0.7)	PDFオートコンバータEX 3.5.0 /PDFコンバータ 5.1.6

アップデートバージョン		連携ライブラリバージョン
2017 Summer	(8.0.8)	PDFオートコンバータEX 3.6.3 /PDFコンバータ 5.1.7.2
2017 Winter	(8.0.9)	PDFオートコンバータEX 3.6.3 /PDFコンバータ 5.1.7
2018 Spring	(8.0.10)	PDFオートコンバータEX 3.6.3.2 /PDFコンバータ 5.1.7
2018 Winter	(8.0.11)	PDFオートコンバータEX 3.6.4 /PDFコンバータ 5.1.8.1
2019 Spring	(8.0.12)	PDFオートコンバータEX 3.6.4 /PDFコンバータ 5.1.8.1
2019 Summer	(8.0.13)	PDFオートコンバータEX 4.0.1 /PDFコンバータ 6.0.1

PDF変換サーバ 要件

- PDFオートコンバータEX のシステム要件に準拠します。
- PDFコンバータ のシステム要件に準拠します。PDFオートコンバータEX および PDFコンバータのシステム要件/仕様については、付属ドキュメントを参照してください。

クライアント要件

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform で出力したPDFファイルを開覧する際には、Adobe Reader等のPDF閲覧ソフトが必要です。

PDF閲覧ソフトに起因するトラブルについてはサポート対象外です。

事前に、運用を想定している閲覧環境にて必ずご確認ください。

コラム

タブレット / 携帯端末においてPDFファイルを開覧する際は、[タブレット/携帯端末においてPDFファイルを開覧する際の注意点](#)をご覧ください。

ライセンス要件

- 開発環境と運用環境で、サーバマシンを分ける場合は、サーバマシン毎にライセンス購入が必要です。
- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を複数のサーバマシンで稼働させる場合、インストール数分のライセンスが必要です。
- ライセンス購入価格については、intra-mart特約店にお問い合わせください。

- 年間保守契約に加入しているユーザは、製品に関する問い合わせおよび、製品のバージョンアップを受けることができます。詳細は営業までお問い合わせください。
- ご要望により研修コースも開催いたします（有償）。また営業デモ等を受けることも可能です。

Windows Updateの適用に関して

Windows Updateについては、最新の更新プログラムの適用を推奨します。

適用後には、必ず動作に問題がないか検証を実施してください。

検証済み環境

- 以下、弊社動作検証済みの組み合わせです。

PDF変換サーバ 環境

WEBアプリケーションサーバ	Java
Tomcat 8.0.21	JDK 1.8.0_31
Tomcat 7.0.61	JDK 1.7.0_79

intra-mart Accel Platform 環境

intra-mart Accel Platform	WEBアプリケーションサーバ	Java
intra-mart Accel Platform 2019 Summer	Resin 4.0.58	OpenJDK 11
intra-mart Accel Platform 2019 Summer	Payara 5.182	JDK 1.8.0_211

制限事項

- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の起動ユーザには管理者権限が必須です。PDF変換サーバでは、Tomcatの起動ユーザが該当します。うまくPDF変換できない等の場合は、まずユーザ権限をご確認ください。
- PDF変換には大きなCPUパワーを必要とします。変換頻度や変換ファイルに応じたマシンの準備をお願いします。IM-PDFAutoConverter for Accel Platform では変換専用サーバ用の機能や負荷分散の機能を持っております。ご活用ください。
- ファイルをPDF変換するためには、PDF変換サーバに対象アプリケーションがインストールされている必要があります。
 - 以下に対応しているアプリケーションの一覧を示します。各製品は最新のパッチを適用ください。
 - Excel 2003、2007、2010、2013、2016 いずれもSP1以上をインストール必須です。
 - Word 2003、2007、2010、2013、2016 いずれもSP1以上をインストール必須です。
 - Power Point 2003、2007、2010、2013、2016 いずれもSP1以上をインストール必須です。
 - (上記以外のバージョンにつきましては、個別に営業までお問い合わせください。)
 - 一太郎2011、2012、2013、2014 (サービス変換の場合は、制限があります。詳細はマニュアルを参照ください)
 - DocuWorks6.x、7.x、8.x (拡張子xdw前提、それ以外の拡張子をご相談ください。)(DocuWorksLiteViewerはNG)
 - ■上記はサーバに必要な製品です。上記で読み込めるファイルはPDF変換できます。変換結果はサーバにインストールされているバージョンの印刷結果に依存しますので、バージョン間での互換性には注意して、サーバにインストールするバージョンを決定ください。
 - 以下のファイルは変換時に他のソフトウェアは不要です。
 - 画像ファイル TIFF (G3/G4)、JPEG(RGB)、BMP、GIF、PNG - 画像ファイルは変換時に他のソフトウェアは不要です。TIFFはG3/G4を標準サポートです。TIFFの圧縮方法によってはPDF変換できないケースがあります。
 - TEXTファイル、Notepad.exe等、右クリックして印刷の機能があるソフトは動作する可能性があります。その場合は、該当ソフトのインストールが必要です。
- CAD (DXF/DWG/SXF/JWW等...) のPDF変換が必要な際には、個別に営業までお問合せください。
- OSのビット数と、Microsoft Officeのビット数は必ず一致させてください。OSが64bitの場合は、Microsoft Officeについても 64bit版 を必ずインストールしてください。
- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform では、リモート呼び出しの技術 (SOAP) を利用しているため、サーバの該当ポートを空けて頂く必要があります。
- intra-mart Accel Platform と IM-PDFAutoConverter for Accel Platform で使用するJDKのバージョンを合わせる必要があります。
- リモートデスクトップ、シンクライアント製品 (Metaframe) が常時使用されている環境では使用しないでください。(メンテナンス目的の一時的なアクセスであれば問題ありません。)

- PDF変換のスピードは、CPUのクロック数、ハードディスクの回転数等のサーバ性能に依存します。処理スピードを求められるシステムでは、CPU2.7Ghz以上、HD回転数15,000回転、IM-PDFAutoConverter for Accel Platform が自由に使用できるメモリが1.5G以上で運用することを推奨します。
- PDF変換はマルチスレッドでは動作しません。（どうしてもマルチスレッドで動作させたい場合、個別に営業までお問い合わせください。）
- Microsoft IMEとATOKがPDF変換の動作に影響を及ぼす場合があります。一太郎については、一太郎のみ変換専用サーバをお使いいただくことが必要になる場合があります。
- ウイルスソフトによっては、まれに変換時にファイルを掴むものがあります。その場合変換関連のエリアをウイルスチェックの対象から外す必要がある場合があります。
- 当社製品にメモリリークがないことは確認しております。ただし、Windowsのアプリケーション（オフィス等）は、長時間使用していると動作が不安定になる場合があります。変換頻度が高い場合は、週1回、最低でも1か月に1回は PDF変換サーバ の再起動を推奨します。
- intra-mart Accel Platform サーバとPDF変換サーバ（Windows）間の通信において、プロキシサーバを経由してご利用頂くことはできません。（プロキシサーバをご使用いただく必要が発生した場合、intra-mart Accel Platform サーバとPDF変換サーバ（Windows）間の通信ではプロキシサーバを経由しないよう、システムプロパティ等から設定いただく必要がございます） どうしてもプロキシサーバ経由で利用されたい場合は別途ご相談ください。
- PDF変換処理はマルチスレッドでは動作しません。従って PDF変換サーバ に依頼された変換処理は、順番待ちの状態となります。同時に大量のPDF変換を行う場合は、PDF変換処理のタイムアウトや PDF変換サーバ への過負荷が原因の接続タイムアウトに注意してください。大量のPDF変換（同時に200件以上）が想定される場合は、PDF変換処理をキューで管理し順番に処理する等、上位アプリケーション側での対応をご検討ください。PDF変換処理のタイムアウトの設定については、添付のAPIリストを参照してください。
- PDF変換処理のタイムアウトを変更した場合は、intra-mart Accel Platform のセッションタイムアウトについてもご確認ください。PDF変換処理が完了する前にintra-martのセッションタイムアウトが発生した場合、変換結果を受け取ることができません。intra-martのセッションタイムアウトの設定については、intra-martのドキュメントをご確認ください。
- Excelのファイルは、印刷対象として設定されている領域のブックを1ファイルのPDFに結合してPDF変換します。特定のブックをPDF変換したくない場合、ブックの削除または印刷領域から外してください。
- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を使用する際には、変換対象のアプリケーション製品（Office/DocuWorks/一太郎等）が必要です。
- ファイルが破損しているファイルやパスワード付きのファイルはPDF変換できません。通常のエラーになるか、タイムアウトになるかについては、Officeのバージョンやアプリケーションに依存します。
- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform はシングルスレッドで動作するライセンスの提供です。評価版において、マルチスレッド設定に変更をしないでください。正規ライセンスを入力すると、シングルスレッドでしか動作しません。費用が高くなっても構わないので、マルチスレッドで動作させたい場合でも、環境によっては性能が発揮できない可能性がありますので、個別に営業までお問合せください。詳細はインストールマニュアルをご確認ください。
- PDFオートコンバータEX を Windows Server 2012 にインストールする際には、.NETフレーム

- その他の制限事項については、PDFオートコンバータEX および PDFコンバータ のマニュアルを参照ください。
- その他最新の技術情報は、intra-mart Developer Support Site を御参照ください。
 - <http://www.intra-mart.jp/developer/index.html>

タブレット/携帯端末においてPDFファイルを開覧する際の注意点

モバイル端末（iOS やAndroid 等の非WindowsOS）にてPDFファイルを開覧する場合、PDFファイルにフォントが埋め込まれていないと、PDFファイルの見た目が崩れる可能性があります。

原因

製品のデフォルトの設定においては、PDFファイル内部では、フォント名・フォントサイズなどのデータが格納されており、フォントファイル自体は存在していません。

通常PDF ファイルを表示する場合、フォント名・フォントサイズなどのデータを開覧する機器内のフォントファイルを利用し表示されています。

AdobeReader の場合は該当フォントが端末上に存在しない場合はそのフォントに近い代替フォントを表示させる機能（すべてのフォントの代替はしない）があります。

PC やモバイル端末においては同じフォントが存在しない場合があります（特に利用頻度が高いMicrosoft系のフォントは、通常は Windows にしか入っていません）。

PDF ファイルを表示した場合、フォントの幅等が違うものが参照され、対象ドキュメントの表示が崩れた状態となります。

対応策

フォント埋め込み済みのPDFファイルの場合、参照フォント情報はPDFファイル内のものから対応し、正確な表示となります。

モバイル端末でPDF ファイルを表示させる場合は、必ずフォントの埋め込み処理を行い、表示の崩れを防いでください。

フォント埋め込みの設定方法については、各製品のマニュアルを参照してください（一部の製品はフォント埋め込みに対応していません。詳細は営業までお問合せください。）。

注意点

PDF にフォントを埋め込む場合、参照フォント領域がPDF に追加される為、出力されるPDF ファイルのサイズが大きくなります。

これはPDF ファイルの仕様です。

どれくらいファイルサイズが大きくなるのかに関しては、実際のファイルにて事前にご確認ください。

保証内容及び対象

この保証規程（以下、「本書」という。）並びに貴社が当社と締結した一切の契約が定める要件（システム要件を含むがそれに限らない。）

及び制限事項の範囲内にて貴社が本製品を利用することを条件として、当社は貴社に対し、本製品に同封され、又は当社ホームページ（<http://www.intra-mart.jp/document/library/?product=pdfa>）に

掲載されているマニュアルの最新版のとおり本製品が動作することを保証します。

なお、当該保証は、貴社における内部的使用を目的とする限りにおいて適用されるものです。

また、当該保証は、当社の一方的な裁量により、無償で交換若しくは修補、又はかかる本製品の対価として

イントラマートが貴社から受領した金額の返金のいずれかの方法によるものとします。

上記の対応は、正規の当社製品を購入され、適法かつ誤りなくユーザ登録を完了されたお客様のみならず当社が行うもので、当社はその他の対応又は保証、特に本製品をインストールしたハードウェア、接続製品、及びそれらに保存されたソフトウェア、データ等の保証（但し、これらに限られない。）は一切行いません。

保証の適用除外

下記の場合は動作保証が適用されません。

- 貴社が、本書又は貴社が当社と締結した一切の契約に定める要件（システム要件を含むがそれに限らない。）
その他の制限事項の定める範囲内にて本製品を利用しなかった場合
- 火災、地震、水害、落雷、ガス害、塩害およびその他の天災地変、公害等の外部的事情による誤動作の場合
- 合理的な使用方法に反するご利用に起因する場合
- 貴社あるいは第三者が改変・変更等及びそれらの作業を行ったことに起因する場合
- 本製品以外のソフトウェア、ハードウェア等との互換性の問題から生じる場合

免責

本製品に関する当社の損害賠償責任は、理由のいかんを問わず、本製品の「ソフトウェア使用許諾契約書」に定める責任の限定の範囲内といたします。

その他の契約との関係

- IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 2019 Summer リリースノート 初版 2019-08-01
本製品の保証に関して、貴社が当社と締結した一切の契約と本書の間に齟齬がある場合には、
本書の記載が優先するものとします。

著作権および特記事項

intra-mart は株式会社 NTT データ イントラマートの登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

本製品を使用する場合は、本製品に含まれる各ソフトウェアのライセンスについても同意したものとします。

以上